

令和5年度 神奈川県立大師高等学校 第3回学校運営協議会 議事録

日時 令和6年3月2日(土) 13時00分～14時20分

場所 大師高等学校 第2講義室

出席者 学校運営協議会

中村委員(会長) 鈴木(伸)委員 竹之内委員 原委員

[学校側]

校長(副会長) 副校長 教頭 菅原総括教諭 廣田総括教諭 白倉総括教諭

邨上教諭 青柳総括教諭 山下総括教諭 以上13名

議事

令和5年度学校評価報告書の校内評価について、次の(1)～(5)について、委員の方々からの意見等を集約した。

*司会：亀田教頭 *書記：高橋教諭

(1)「教育課程・学習指導」について

(司会)：「教育課程・学習指導」について、今年度の取り組みはどうか。

(学校)：来年度は全年次、新教育課程へ移行する。毎年、履修ハンドブックの内容をアップデートしている。もともとは総合学科からの移行に際して教員にも履修について理解してもらえるように履修ハンドブックを作成したという経緯がある。今後も、教員が履修について理解を深めるといった視点も持ちつつ、作成を続けていく。

南大師中学校との交流については、お互いの学校の授業や行事の予定を合わせることができず、中高揃っての意見交換会はできなかった。交流期間はこれまでよりも長く、2週間にわたって授業見学を実施した。予定を合わせ実施するのは難しいが、これからもこの取り組みを続けていきたい。来年度は中高揃って振り返りを行えるようにしたい。

(司会)：「教育課程・学習指導」の報告についてはどうか。

(学校)：異校種(中学校)の授業見学や授業研究への参加の機会は、授業改善を進めるためにお互いにとって良い刺激になっている。また、中学校での一人一台端末の取り組みを見ることができたのはよかった。来年度はもう少し早い時期に開催できるように調整を行いたい。

(委員)：一人一台端末のアンケートで、具体的にどんな課題や展望が出たのか。また、校内ではどのような話し合いになったのか。

(学校)：アンケートでだされた意見や課題についてグループで話し合い、どのような取り組みが必要か検討している段階である。

(委員)：異校種訪問は良い取り組みだが、授業を観察するだけで着眼点がわかりにくい教員もいるのではないかと。生徒への伝え方、接し方などポイントを定めて見ることが大切ではないだろうか。

(学校)：意見交換を想定して、授業を観察する際のチェックポイントを設定する等の方法で、振り返りをよりよくしていきたい。

(委員)：在県外国人生徒については、年々、生徒の受け入れ態勢が整ってきているように感じている(学びの保障につながっていると思う)。同じような経験をもつ先輩と関わりを持つことができる地域連携を進めてほしい。

(2) 「生徒指導・支援」について

(司会) : 「生徒指導・支援」について、今年度の取組みはどうか。

(学校) : 数字での提示はできず、理念的な話から取り組みを報告したい。本校の方針とは、「無理のない生活指導」であり、無理のある指導とは生徒の気に合わない指導や実現が難しい指導であると考えている。

(司会) : 「生徒指導・支援」について、今年度の変更点はどのようなものがあるか。

(学校) : 従来は認めていなかったジャージ登校を許可した。今までジャージ指導をなかなか聞き入れてくれなかったということは、そもそもジャージ指導に無理があったのではないかと考えた。ここ2年、一部の期間、ジャージ着用を試行的に許可にしたが、学校生活が乱れるということはなかったので、ジャージを上下ともに着用すれば校内では制服と同じ扱いにした。

パーカーについても、生活が乱れるおそれがあるとして認めていなかったが、近年の社会通念上、パーカーは受け入れられているといえる。そのため、ルールを定めたいうえで認めることにした。頭髪指導も、個々に話をして、それぞれの生徒が持つ特性を意識しながら接している。個々に話をしながら、生徒が社会に適應できることを目指していく。あるがままの生徒を受け入れて話す。決めつけや教員の価値観で指導を行ってはならない。社会通念と学校文化のすり合わせを常に意識する。

(司会) : 学校行事等の取り組みについてはどうか。

(学校) : 新型コロナウイルスの感染防止のための制約がなくなり、従来通りの行事を実施できるようになってきた。特に、繫心祭（文化部発表会）をさらに充実させるように内容の再検討等に取り組んだ。文化部の発表の場としての行事ではあるが、運動部の生徒も役割を与えるようにした。強制的に参加させる行事ではないが、去年の倍に近い生徒が参加した。

体育祭でも文化部の生徒のパフォーマンスの場を作り、生徒たちが普段どういったことに取り組んでいるか、理解できる場を増やすように心がけた。

部活動の加入率について、6月ごろまでは全体の30%ほどだったが、1月には26%まで落ちてしまった。アルバイト等に流れていってしまったと考えられる。継続して部活に取り組ませることに課題がある。

(委員) : 頭ごなしの指導、理不尽な声掛けが通用しない社会になっていると、企業でも感じる。大師高校の服装指導は、その点で生徒が一定の自由を得ているといえるのではないかと感じる。また、このことが対外的なアピールポイントとなるのではないかと感じる。企業ではインターンシップの一環として「学生が感じるその企業の魅力」について発信してもらう課題を与えることがあるが、企業の視点ではわからない、学生の需要がわかることもある。同じように、学校のPRの際に生徒の視点での魅力を発信する機会を設けてはどうか。授業で活用する一人一台端末を使った活動にもなるし、生徒に達成感を与えることもできるのではないかと感じる。

(学校) : 生徒たち自身に「正しいルール」として発信するものを作らせれば、より強く学校のルールを感じてもらえるきっかけになるかもしれない。現行の服装指導でも、全く問題がないわけではないので、よい機会になると感じる。

(委員) : 無理のない生徒指導で、生徒は守られていると感じる。問題があった際も向き合っているように見えるが、単位の取得に関して生徒が甘えている面があるのではないかと感じる。生徒間で「この程度やっておけば大丈夫」といったものが広まっており、目先のアルバイトや娯楽に時間を費やす生徒も少なくない。自分の将来に、今の自分の活動がどうつながっ

ていくのかを意識させてほしい。ふれあい館でも、個々を尊重して縛り付けないようにしていたが、生徒たちに「ゆるいからいいや」と思われてしまう面もある。自分たちでルールを意識できるようになるとともに、無理のない生徒指導を生徒たちに本当の意味で理解してほしい。

(委員)：無理のない生徒指導で、生徒と教員がそれぞれどのように変わったのかを知ることが重要である。野放しとなってしまうように、式典の際には制服をきちんと着用するなど、抑えるべき点は抑えて指導していく必要があるのではないか。指導の目的や意図も生徒に伝えて浸透して行ってほしい。繫心祭の参加者倍増は素晴らしい成果だと思う。

(3) 「進路指導・支援」について

(司会)：「進路指導・支援」について、今年度の卒業生の進路の状況はどうか。

(学校)：3月第2週目ごろまでには結果も出揃う。39期生は粘り強く頑張る生徒が多かった。例年は年明けまで未決定だと気持ちが切れてしまう生徒もいたが、今年の卒業生はこちらの指導に乗ってきた。現時点で、約8割の生徒の進路が確定している。今年度の特徴として就職を選ぶ生徒が多かった。進学から就職に切り替えた生徒の中には、進学希望分野と同じ業界で就職し、働きながら資格を取ることにした生徒もいた。フリーターはわずかな人数で、海外への進学準備を理由とした未確定の生徒やモデルや芸能プロ所属の生徒もいた。

在県外国人の生徒間では、国内の進学希望が多かったが、昨年度から母国へ戻り、母国の大学に行きたいという生徒も散見された。実際には難しい選択だが、希望する生徒は増えてきている。日本の学校のキャリアよりも、親しんだ母国でのキャリアを選ぶ方がよいという判断なのであろうか。今後、在県外国人の生徒への指導をどうするかが課題である。

(委員)：フリーターとなる生徒の数が減っているのは良い傾向である。1年次からのキャリア教育の賜物ではないか。実際には、就職活動についてどのような指導をしているのか。

(学校)：就職活動では、複数の企業を同時に受けることはできないので、1社を決定するまでに複数の企業を検討するように指導しているが、こちらから候補も提示している。

(委員)：3年次の進路選択に影響している1年次生での取り組みには何があるのか。

(学校)：「教員が生徒の話を聞く」ことを継続して行っているので、3年次生になってから教員と話をすることができるようになっていないか。服装指導等、指導の内容を取捨選択したことで話をする余裕が生まれているのかもしれない。また、コースエキスポ等、企業の方の話を聞いたり、資料を手に入れることのできる場をこれからも設けていく。

(4) 地域等との協同

(司会)：「地域等との協同」について、今年度の取り組みはどうか。

(学校)：学校説明会について、例年通り実施した。特にホームページでは、生徒の取り組みや学校行事に関して丁寧に更新を継続している。また、先述の生徒によるPRについて、生徒に動画を作成してもらうこともできるのではないかと感じる。総合的な探究の時間に取り入れることができるかもしれない。中学生の興味をひくような大師高校の魅力を発信できるようにしたい。

(委員)：入試選抜における受検生の出願数に関連して、学校説明会の参加者数は例年と比較してどうか。

(学校)：例年と大きく変わることはなかった。

(委員)：学校説明会の参加者と出願率の関連はどうか。出願しなかった説明会参加者の理由として考えられることは何だと思うか。大師高校として何を伝えていくのか、どういったメッセージを発信していくのかなどが大切なのではないか。

(委員)：生徒たちの「なぜこの学校を選んだのか」が中学生へのアピールポイントになるのではないか。成績面等で大師高校を選ぶことにはなるだろうが、なぜ他の同レベルの学校ではなく大師高校を選んだのかに注目し、生徒の目線で発信していくように取り組んでみてほしい。

(5) 学校管理・学校運営

(司会)：「学校管理・学校運営」について、今年度の取り組みはどうか。

(学校)：PTAに関して、繫心祭では生徒からPTAへ食品や飲料の提供のためのPTAへの要望が出ている。新型コロナウイルス感染症予防のための制約がなくなってきており、いろいろな活動ができるようになってきた。保護者も協力してくれるので、学校行事で生徒とかかわるような活動をお願いしていきたい。また、ICT端末を活用できていない教員も少なくない。これからは実際にどのように活用していくかの研修を行いたいが、現状はそれにむけた取り組みはあまりできていない。

(委員)：地域施設の一員として大師高校に関わっているが、在県外国人の生徒らの生活に関する手続き（支払い等）の支援は地域でも引き受けることができるので、ぜひ頼ってほしい。担任では難しいであろう手続きの支援もできるので、相談してほしい。また、そのような生活基盤あってこそその学校の指導だと思う。また、話を聞くだけにとどまらず、解決策も一緒に考えてあげるとよいのではないか。